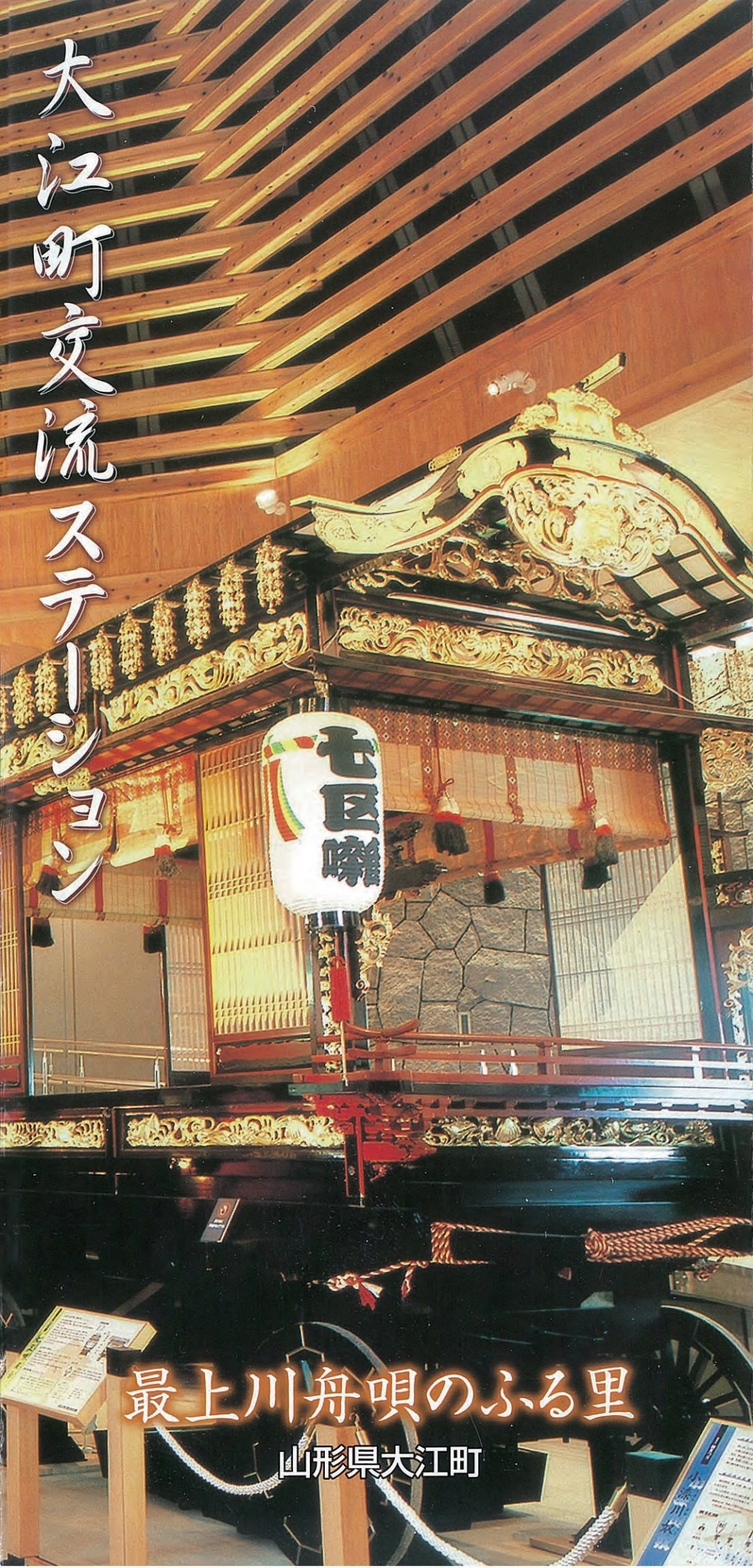


大江町交流ステーション



最上川舟唄のふる里

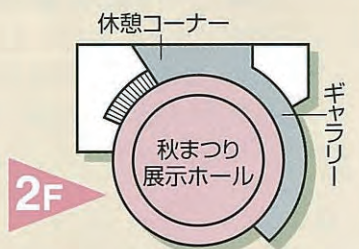
山形県大江町

施設のご案内

交流ステーションは、町の玄関口、JR左沢駅に隣接する、歴史と文化、観光や特産品など町の情報を発信する新たな交流施設です。

ひときわ目を引く尖塔型のシンボルタワーは、中世にこの地を支配した大江氏の山城（やましろ たてやま楯山城）をイメージした石垣造りとなっています。

館内には「秋まつり展示ホール」のほか、町の特産品や駄菓子を販売する「物産コーナー」、写真展や絵画展などを開催する「ギャラリー」、「多目的ホール」などがあります。



秋まつり 展示ホール

毎年9月に行われる「おおえ秋まつり」の伝統的な郷土芸能である、囃子屋台、獅子踊、奴を展示しています。展示物はいずれも本物で、ホールに入ると、秋まつりの臨場感あふれる光と音響による演出が行われます。



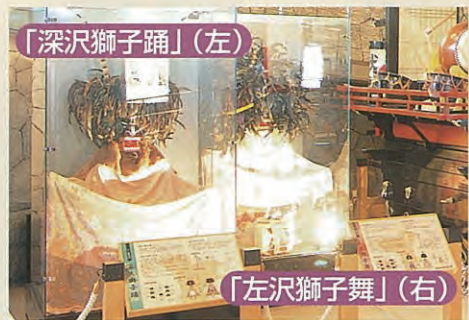
「御免町囃子屋台」

「七区囃屋台」

囃子屋台は、江戸時代後期に遠く京文化の影響を受けて製作されたもので、共に櫓造りの本体に漆塗り、彫刻部分には金箔をふんだんに使用した絢爛豪華なものです。「御免町囃子屋台」には、囃し方の様子を忠実に再現しています。



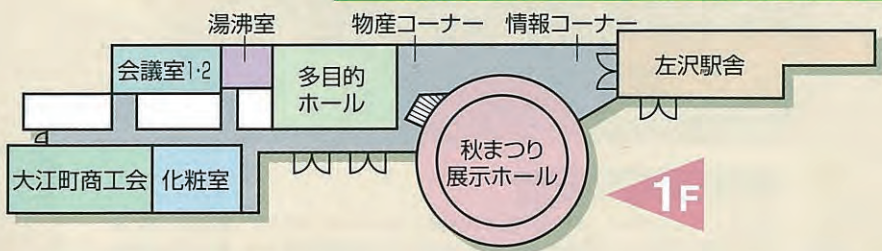
「小漆川奴」



「深沢獅子踊」(左)

「左沢獅子舞」(右)

交流ステーション館内案内図



交流ステーション施設配置図



秋祭りの由来

もがみ がわしやうん かみなと 高てら
最上川舟運の主要な川港の町として栄えた左
沢は、様々な物資が運び込まれるとともに、人
や文化の交流も行われました。こうした交流の
歴史が今に伝わる祭の原形となっています。



小湊川奴

昭和3年



御免町囃子屋台

大正11年

江戸時代

左沢の祭といえば天満神社の祭礼。御輿や獅子舞、各町内の囃子屋台・手踊りの他に武士や大庄屋が行列に参加して町内を練り歩きました。

明治時代から大正時代

左沢八幡神社が郷社となり、町民の信仰を集めました。現在地である町の中心部に社殿が移り、この頃から獅子舞や囃子屋台が八幡神社の御輿に奉仕するようになりました。



横町組囃子屋台

昭和26年

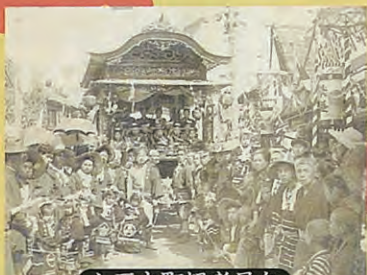


左沢獅子舞

昭和37年

昭和から平成

昭和天皇即位の御大典を祝う八幡神社例大祭で奴行列が初めて披露され、奴・獅子舞・八幡神社御輿・子供御輿・囃子屋台が行列を組んで回りました。その後、これら演し物がほとんどみられない時期もありましたが、徐々に復活し、今日に至ります。



七区内町組囃子屋台

大正11年



深沢獅子踊

昭和30年

七区囃子屋台

豪商の意気を示した 豪華な屋台

1849年に造られたもので、最上川舟運を通じて京文化の影響を受け、総檜造りの本体に漆塗り、彫刻には金箔が施された町内一豪華な屋台。当時、町内の豪商たちが、一軒あたり米30表を出し合って造ったと言われています。

復活した屋台が 優雅に練り歩く

大正中頃までは神社の祭礼や町内の祝賀行事で必ず引き回されてきましたが、昭和になってからはほとんど倉庫に眠ったままの状態でした。平成になって屋台復活の機運が高まり、住民一体となつての復元作業により復活を遂げました。のぼり旗、手古舞、長老、引き手、お囃子、屋台と正統的な行列をつくり、「銭太鼓」も披露され、一層華やかさを増しています。



お囃子の構成

お囃子は、左沢が最上川舟運の川港として栄えた江戸時代に、酒田を通じて伝えられたもので、京都祇園囃子の流れをくむと伝えられます。囃子方は、締太鼓、宮太鼓、笛、三味線、鉦、拍子木で構成され、10名ほどの囃子方が屋台の中に入り込みます。七区のお囃子は、優雅に奏でられるのが特徴で、赤い着物姿の三味線方が祭りに彩りを添えます。

お囃子解説

ちゃんちゃんねんつ
左沢の秋祭りを代表するお囃子で、演奏するの最も難しいとされています。

新囃子
大正時代に、左沢の祭禮を記念してつくられたもので、内職が来た喜びが歌われています。

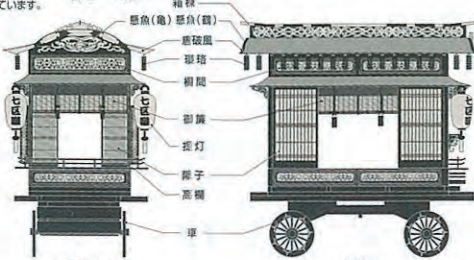
かっこ
いかにもお囃子らしい優雅な曲ですが、演奏するのは最も難しいとされています。

十五夜
わらべうたの「うさぎ」をお囃子として編曲したものです。

どんぼり
祭りの朝、屋台が町内に出るときに奏でられるお囃子です。

夜神楽
秋祭りの締めくくりとして、屋台が地元を引き上げるときに奏でられます。

間口 2.02m
奥行 3.29m
高さ 4.61m



正面

側面

小漆川奴

左沢小漆川城の面影を伝える奴行列

昭和3年に八幡神社祭礼、昭和天皇の即位を祝う御大典記念祝典、左沢尋常高等小学校の大改築落成記念式典が重なり、それを祝う為に秋田佐竹藩の振奴に村山市湯野沢の舞奴を加えた下小漆川地区独自の小漆川奴が創られました。奴道具も昭和20年代に天童藩主であった名家から譲り受けた由緒ある逸品です。

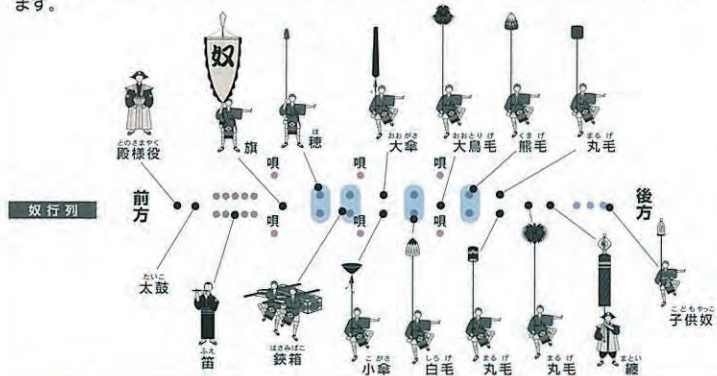
槍を携え整然と、勇壮に舞う

化粧顔をした小漆川奴15名が勇ましい掛け声とともに登場し、長さ4メートルもある槍を振りながら息の合った勇壮な踊りを展開。総勢60名で練り歩く奴行列は、秋祭りに勇壮さと風格を与えています。昭和40年には「十三区奴保存会」、昭和60年には小中学生による「子供奴」を創設。地域が一体となって伝統の技を継承しています。



奴行列の形態

奴行列は、笛、太鼓、歌い手、子供奴、世話人などを含めると総勢60人の大行列になります。15人の奴は、のぼり旗や鉄箱、長柄の槍などを担ぎますが、長柄の先の覆い飾りがそれぞれ異なるのが特徴です。奴の中心は大鳥毛で、列のまん中で踊りや行進の指揮をとりま。囃子方には、着物姿の笛と歌い手、奴と同様の化粧をした長襦袢と赤股引姿の太鼓打ちがいます。



深沢獅子踊

山寺から伝えられた伝統の古式獅子踊り

深沢地区に伝わる古式獅子踊りの一つとされ、山寺から伝えられたもので、江戸時代の中期にはすでに踊られていたと伝えられています。深沢獅子踊は、踊り手が交代すると山寺に奉納することとなっていますが、昭和55年の奉納では、立石寺から山寺獅子の流れをくむものとして認定を受け、免許皆伝の証と斧が授けられています。

仏教色を色濃く残し 激しい踊りを繰り広げる

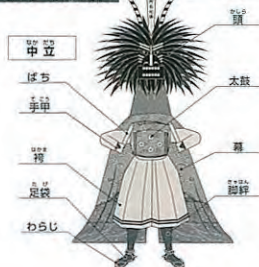
七頭の獅子と鉦打の子供一名で行われる踊りは、本来仏教的要素が強く、盆や彼岸に獅子踊りで先祖供養を行う風習が近年までありました。また、集落内で死者が出ると葬列の先導を努め、葬儀で獅子踊りも行いました。



獅子の衣装

深沢獅子踊は、7頭の獅子と、鉦打の子供1名で行われ、中立を中心に、先獅子、中獅子、女獅子が両側に並び、鉦打ちの子供が後ろに立ちます。獅子頭が特徴的で、先獅子は太陽と月をいただきますが、中立は頭の中心に南無阿弥陀仏と書かれた位牌を立て、神社では御幣につけかえるという、神仏混淆の形態をとります。獅子は白袴姿に太鼓を抱え、2メートル前後もある長幕をひらめかせながら、踊りをくりひろげます。お囃子は、獅子が持つ太鼓のほか、大太鼓と鉦、笛で奏でられ、別に歌い手が加わります。

獅子の衣装



踊の基本形態



あてらざわししまい 左沢獅子舞

七百年の伝統を持つ 大江氏ゆかりの古式獅子舞

約700年前、最上川の百目木付近が舟運の難所であったことから、左沢楯山城主大江氏が、舟運安全を祈願して城下の元屋敷に波切不動明王を祀り、また霊験あらたかな山形妙見寺獅子踊の分霊を受けて、獅子を舞わせたのがはじまりとされています。雨乞いの儀式や悪魔退散、所願成就の祈禱として踊られてきたもので、現在も家内安全や商売繁盛を祈願し、また婚礼や出産のあった家の前で、厄払いとして舞いを行う習慣が残されています。

七頭の獅子が激しく、 劇的に舞う

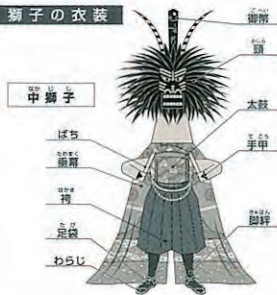
7頭の獅子と鉦打ちの子供2名、笛方、世話人を含め約40名で行列を組み、笛、太鼓、鉦が奏でる神秘的なお囃子に合わせて、約30分間激しく舞い踊ります。



獅子の衣装

左沢獅子舞は、7頭の獅子と、鉦打の子供2名により踊られます。獅子の中心は中獅子で、鉦打の子供を守るように立ち、両側に頭獅子、太鼓獅子、牝獅子が並びます。中獅子は頭の中心に、神前で奉納するための御幣をつけ、頭獅子は太陽と月をつけます。獅子は衣装として垂帯をつけますが、中獅子の帯の大きさは畳8枚ほどもあり、全国的にも珍しいものです。獅子は斧を、牝獅子だけは鎌を背負います。お囃子は、獅子が持つ太鼓のほか、鉦と笛で奏でられ、唄は中獅子が踊りながら歌います。

獅子の衣装



舞の基本形態



ごめんまちはやしやたい 御免町囃子屋台

天満神社のお膝元に伝わる 町内最古の屋台

天保14(1843)年に建造された、町内最古の屋台。現在は左沢八幡神社例大祭に合わせて行われる秋祭りですが、江戸時代は天満神社祭礼が左沢を代表する祭りであったため、天満神社の膝元にあり、職人も多かった御免町で最も早く屋台が建造されたものと言われています。

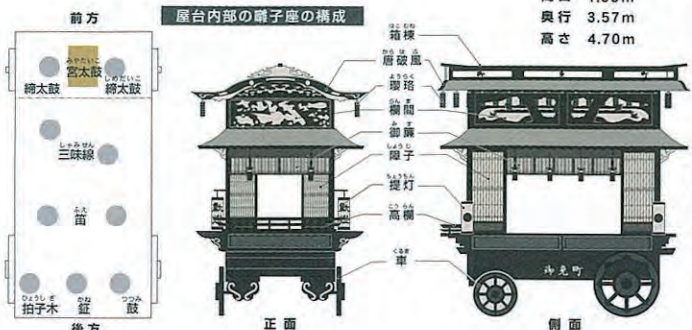
復活した屋台が 重厚なお囃子を響かせる

江戸から大正にかけては祭礼ごとに屋台が引き回され、賑やかな囃子座が町内を練り歩きましたが、昭和に入るとほとんど日の目を見ることがありませんでした。平成に入り、地区住民の呼びかけにより3年がかりで修復を行い復活。およそ100名で引く屋台行列と総勢30名のお囃子が、重厚な音色を響かせながら町を練り歩きます。



お囃子の構成

お囃子は、七区と同様に、京都祇園囃子の流れをくむものと伝えられます。囃子座は、締太鼓、宮太鼓、笛、三味線、鉦、拍子木に、鼓が加わります。特に御免町囃子座は、演奏のさまが美しく、様式的なのが特徴です。お囃子の曲には、「ちゃんちゃんねんつ」「新囃子」「かっこ」「十五夜」「どとんぼり」「夜神楽」の6曲があります。



遊歩百選

最上川舟運文化みち 遊歩コース



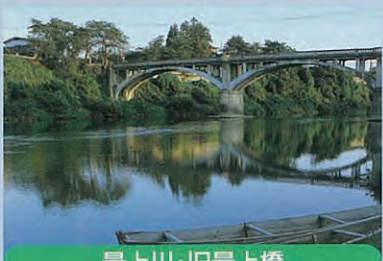
観光モデルコース

舟唄のふる里を訪ねる遊歩コース



楯山公園

中世に左沢を治めた大江氏の山城跡で、通称「日本一公園」と呼ばれています。最上川の眺望が絶景であることから、古くから多くの文人が訪れたことで知られています。山形県を代表する民謡「最上川舟唄」の記念碑が建立されています。



最上川・旧最上橋

東へ大きく蛇行して流れる最上川と、川面に影を映す眼鏡橋。この美しい姿は、ふるさとを象徴する風景として、多くの人々の胸に刻まれてきました。昭和15年に架けられた橋で、平成15年度に山形県で初めて土木学会奨励土木遺産に認定されました。



原町通り

江戸時代、造り酒屋や大間屋など、領内きっての豪商が軒を並べた「原町」。城下町左沢に早くから整備され、定期市も開かれていました。旧家の瓦屋根、土塀、蔵、老松の古い町なみが、最上川舟運によるかつての繁栄を静かに語ります。通りには市神も祀られています。

問い合わせ先

大江町交流ステーション
TEL 0237-62-5501

大江町産業振興課
TEL 0237-62-2111(代)
<http://www.town.oe.yamagata.jp/>